関西現代俳句協会会報
No. 44
2015.10.1

名から二二八句が寄せられたのは有り難かった。年々高齢化による会員数減少著しき現状においてのこの成果は、会員及び役員の皆様のご協力の賜と感謝に耐えない。この成果を来年の第六回俳句大会につなげて行きたい。

第五回「関西現代俳句大会」開催

選者特選賞を設け好評

――二四二名の皆様から、一二二一句――

第五回関西現代俳句大会は去る四月二十五日（土）、大阪市中央区のホテルヴィアーレ大阪において、応募者二四二名、投句数一二二一句の参加を得て、併催の理事会・総会・懇親会と共に盛大に開催された。今年は残念ながら応募者、投句数とも前回を下回ったが今回より新しく設けた選者特選賞の効果もあって、昨年比九％の減少に留まった。中でも会員外の投句者六十

第五回　関西現代俳句大会　入選句　（計　三十九句）

大会賞

芒野を出てくる少しずつ老けて　藤井美智男（青　群）

秀逸賞

影法師先に歩ませ冬に入る　井上菜摘子（京鹿子）
自画像の居並ぶやうな日向ぼこ　倉橋あつ子（京鹿子）
着ぶくれて孤独しづかに育ちゆく　樋本　和恵（草　樹）
同じ方へ曲る靴音敗戦日　桑田　和子（暁）
嬰児ごと引っぱって来し花筵　岩成　天風（暁）
木に草に雨ゆきわたる草城忌　桑田　和子（暁）
寒卵割る音今日のはじまる音　佐野　延子（暁）
雪折れの傷はけものの匂いする　岡崎　淳子（暁）

佳作賞

人の世の何処かが軋む年の暮　松村　筐花
自らの影を離れて春の蝶　高橋　将夫（槐）
壺に挿す風のかたちに秋の草　山城　馨子（藍）
色鉛筆転がり春を追ひかける　雨村　敏子（槐）
白菜を包むノーベル賞の記事　中俣　博（草　樹）
笹鳴やいつもどこかで電子音　片山　熙子（京鹿子）
本流に出て力ぬく雪解水　村松　桂子（京鹿子）

三猿に徹して解かぬ懐手　藤田かもめ

選者特選賞

（赤尾　恵以選）

母といた昭和最後の手毬唄　林　仁子（風　来）

（伊丹三樹彦選）

君悼むためにわれ在り冬薔薇　岡崎　淳子（暁）

（宇多喜代子選）

梟の首ひと回りして戦前　藤村　寿子（暁）

（尾崎　青磁選）

稲穂波土偶の腰の張りゆたか　山田　和（京鹿子）

（柿本　多映選）

はじまりの音して木の実落ちにけり　東　徹（獅林）

（久保　純夫選）

色鳥や残してゆきし山の雨　赤尾　徳也（渦）

（小泉八重子選）

冬の鵙母は戦に子を出さず　藤村　寿子（暁）

（鈴鹿　仁選）

かくれんぼかくれたはずの枯野原　松浦てつ子（暁）

（高橋　将夫選）

冬の川動かぬやうで堰落つる　五十川智恵子（京鹿子）

（谷口　洋選）

枯野出るころに身軽になっている　米崎璃津子（暁）

（谷下　一玄選）

自画像の居並ぶやうな日向ぼこ　倉橋あつ子（京鹿子）

（豊田　都峰選）

秋祭り担ぐ御輿の神知らず　尾崎　青磁（蕪）

（豊長みのる選）

晩学の一机一灯年明くる　川嶋　充（藍）

（花谷　清選）

みほとけは指より朽ちて寒の寺　片山　嘉子（渦）

（日原　輝子選）

美しくへの字ハの字に鳥帰る　西久保弘道（南海）

（政野すず子選）

凍星を連れて無頼の猫帰る　中田いつ子（暁）

（的場　秀恭選）

妹はいもうとのまま赤のまま　小崎　愛子（葵）

（室生幸太郎選）

遺影撮るための寒紅薄く引く　田畑耕之介（京鹿子）

（森田　智子選）

冬いちごよりもおそらく死は甘美　蔵田ひろし（草樹）

（吉本伊智朗選）

るいるいと人の世にある蟻地獄　柏原　才子（季流）

（吉田　成子選）

夏衣富士の山裾踏んでをり　高橋　将夫（槐）

（若森　京子選）

子離れのだんだん眠く雪積もる　一門　彰子（暁）

（入選句は関西現代俳句協会のホームページで紹介しています）

俳句大会の詳細について

第五回俳句大会の参加作品を直ちに作者無記名の「選句稿」にまとめ、二十二名の各選者に送付した。選句は一人四十句とし、内一句を選者特選賞として選んで頂いた。

今回も会員の皆様はじめ、俳句愛好者の皆様方の俳句に

対する熱意と、当会への熱いご支援のお蔭と改めて感謝を申し上げると共に、ご多忙中にも関わらず快く選者をお引受けいただいた方々にも、また、類似句の調査にご協力下さった現代俳句協会事務局のお力添えにも、厚くお礼を申し上げる次第である。

俳句大会は上藤おさむ事務局長の司会に始まり、吉田成子会長は「今年から選者特選賞を設けた、選句数も十句増やしたので、高得点句が増えると考えていたが、そうはならず選者の選は可成り散った。これは全体のレベルが上がっている証拠である。こういう大会に投句するのは、自分の作品の評価を確かめる楽しみがあり、他結社の人の作品を知る機会でもある。」との挨拶があった。

引き続き杉浦圭祐氏による披講、入選句発表のあと吉田成子会長より各入選者の表彰があり、最後に各選者による講評があったが、今回から新設された選者特選賞への関心が高かった。

栄えある大会賞を獲得された藤井美智男氏。以下秀逸賞八名。佳作賞八名。選者特選賞二十二名。計三十九名に吉田成子会長より賞状と副賞が授与された。最後に選者による講評で大会を締め括った。

なお俳句大会の選者は協会の理事及び各結社の代表者を中心とした次の方々にお願いした。（五十音順）

赤尾恵以（渦）・伊丹三樹彦（暁）・宇多喜代子（草樹）・尾崎青磁（蕪の会）・柿本多映・久保純夫（儒艮）・小泉八重子（季流）・鈴鹿仁（京鹿子）・高橋将夫（槐）・谷口洋（駅）・谷下一玄（半夜）・豊田都峰（京鹿子）・豊長みのる（風樹）・花谷清（藍）・日原輝子（頂点）・的場秀恭（獅林）・政野すず子（暁）・室生幸太郎（暁）・森田智子（樫）・吉本伊智朗（斧）・若森京子（海程・船団）・吉田成子（草樹）の二十二名の選者です。

以上をもって大会は滞りなく成功理に終了した。多数の皆様のご協力に深く感謝致します。

（事務局）

会長挨拶

関西現代俳句協会
会長　吉田　成子

異常気象に振り回されるような一年も大方過ぎ、酷暑のあと思いがけず秋が早く来ました。日頃は協会運営に御協力いただき有難うございます。

すでにご承知のように今年は当協会にとって貴重な先輩の訃報が続きました。二月に和田悟朗顧問、そして七月には豊田都峰顧問、続いて九月に吉本伊智朗顧問です。ともにこの会の発展に一方ならず尽くされた方です。かけがえのない先達三人を失い、会長としてこの会の今後に心許無い思いは否めません。

しかしそんな中で四月の「総会、俳句大会」また八月には今年新しく企画しました「定例句会」の第一回を開催、加えて隔年開催の「吉野の桜を守るための色紙・短冊展示頒布会」などの行事も無事終わりました。何れも皆様の篤いご協力に支えられ盛会でした。

昨今俳壇の高齢化は益々進み、当協会もその例外ではありません。会員の減少は止む無い事態として今後も続くと思われます。けれどもこの現象においても我々の俳句に寄せる熱意が削がれるわけでは無いと信じます。今後も皆様の協力を得て、関西現代俳句協会が会員の俳句活動の意義ある拠点になるように努力したいと思っています。

事務局からのお願い

※会員の句集、著書について

会員の皆様が上梓された句集や著書は関西現代俳句協会のホームページでご紹介していますので、事務局へ一冊ご寄贈いただきますようお願いします。なお事務局の住所は次の通りです。

〒六一九―〇二二四
木津川市兜台五―一―十三　木津かぶと台十四―一〇一　上藤（うえふじ）おさむ方
関西現代俳句協会事務局

※会員の訃報について

会員のご逝去は、ご家族や会員の皆様からのお知らせにより、東京の協会本部に連絡させていただいていますので、お知合いのご逝去は事務局へご一報ください。

忘年・句集祭のお知らせ

この会報に本年の「忘年・句集祭」のご案内と参加申込みのハガキ、並びに句集出展の申込み用紙を同封しています。
申込みの締切りは十一月五日です。
多数のご参加をお待ちしています。

関西現代俳句協会事業報告

平成26年7月～27年6月

会長　吉田成子

吉田成子会長より「寒波の中よく集まっていただいた。昨年を上回る人数で喜んでいる。皆さんにとってこの句集祭が良き思い出になればと願っている。」との挨拶。上藤事務局長から「先程の理事会において、議題はすべて滞りなく承認された」旨の報告がなされた。続いて句集祭となり、18点の句集と5点の文集等昨年を上回る23点の披露と句集代表句の披講がなされた。

◆平成27年度理事会・総会

今年の「総会」は4月25日（土）にホテルヴィアーレ大阪で開催した。理事会、総会に続き俳句大会、懇親会が行なわれた。出席者は理事会20名・総会64名・俳句大会77名・懇親会68名であった。総会は64名の出席と312名による委任状提出で成立した。議長に選出された的場秀恭副会長の進行によって審議された。何れも理事会の審議事項と変わらず、満場一致の拍手で可決された。

（議案及び報告事項）

第一号議案　平成26年度事業報告
第二号議案　平成26年度会計報告
第三号議案　平成27年度事業計画
第四号議案　平成27年度予算案
第五号議案　事務局役員の変更並びに増員について

◆忘年会＆第39回句集祭

恒例の「忘年会＆句集祭」を平成26年12月6日（土）に開催した。場所は前年と同じ大阪船場のホテルヴィアーレ大阪、参加者は74名であった。

役員の変更について提案。原案通り満場一致にて承認された。

従って、川﨑奈美理事は企画部長を辞任し事務局長補佐に、西川吉弘理事が企画部長に就任した。

（報告事項）

・第十五回現代俳句協会大賞　　高橋睦朗氏受賞

・東京通常総会の報告　十月の全国大会（東京）に協力

・色紙・短冊展開催について

◆色紙・短冊展

隔年開催の「吉野の桜を守るための色紙・短冊展示頒布会」を日本伝統俳句協会関西支部・俳人協会関西支部・関西現代俳句協会の三協会共催で、八月二十八日（金）・二十九日（土）両日に大阪市中央公会堂に於いて開催され、各結社の協力により当初の目標を達成した。

◆青年部の活動

①関西現代俳句協会ホームページ内の青年ページを毎月掲載。

②平成二十六年十二月、第三回ギャザリング（共催：関西現代俳句協会）、『関西六大学対抗俳句バトル』と称し、京大、阪大、立命館、甲南、龍谷連合が俳句甲子園形式で対戦。伊丹市柿衞文庫に約五十名が参加して行なわれた。（内半数が大学生）

③平成二十七年三月二十一日（土）関東・関西青年部員と句会&懇親会を開催した。（参加者十九名）

④平成27年8月9日（日）、関西現代俳句協会青年部主催による「俳句スパークス関西！追悼・和田悟朗」が神戸・三宮で開催された。基調報告は和田悟朗氏が代表を務めていた「もとの会」幹事の野口裕氏。他に青年部から岡村知昭氏、曾根毅氏の両名。協会外の若手から仮屋賢一氏の四名が、先に発刊された「和田悟朗全句集」を読み解いていくかたちで進められた。協会内外から三五名の参加者があった。

◆会報の発行

平成27年10月第44号を発行、関西地区全会員、全地区現代俳句協会及び関係先に配布した。　（上藤おさむ）

新会員の一句

今年度の、現代俳句協会に入会された関西地区の会員の方々から一句ずつお寄せいただきましたので、ご披露いたします。

（到着順・括弧内は所属誌）

書架に満つ過去の匂いや半夏生　南葉江津子（藍）
蟬ポロリポロリポロリと白くなる　葛城　裸時
原爆忌語り部いまだ国訛り　山浦　純（獅林）
閑かなる蟬の谺や苔育つ　早藤ほづみ（藍）
瓢箪の器量良し悪し屁の河童　妹尾　節
原爆忌開けてはならぬ玉手箱　いわきり秋月
天道虫飛んで残れる夢の跡　北浦ひばる
ふらここや地球の地軸傾きて　河合　和彦（獅林）
故郷は今も昔も青田風　植松　半石

今年度の入会者は十一名（八月末現在）でしたが、残念乍ら二名の方は辞退されました。

事務局便り

経理部からのお知らせ

四月二十五日（土）昨年と同じホテルヴィアーレ大阪にて開催された総会は六十四名の出席者があり、平成二十六年度の会計報告、二十七年度の予算案などをご審議頂き、何れも事務局提案通り可決されました。詳しい数字は別表の会計報告をご確認下さい。

幸いにして黒字決算となりましたが、これは第五回俳句大会開催の効果であり皆様のご協力のお陰です。関西を元気づけるための大切な行事であり、経理面でも助かっております。引き続き二十八年度第六回大会へも奮ってご参加のほどお願いします。

しかしながら会員数減少の流れは変わらず、会員増加のため「一人が一人の会員を」のスローガンを掲げ事務局一同頑張っておりますが、皆様の一層のご協力を切望しています。

（経理部長　村田あを衣）

企画部長就任ご挨拶

今般、企画部長に就任させていただきました西川吉弘です。文字通りの浅学非才そのものですが、会長、事務局長のご指導と、会員皆様方のご支援をお願いしまして微力を振り絞りたいと存じます。

直近の企画としては、定例句会の開催です。既に第一回句会は八月二十九日に、大阪市の中央公会堂で盛況裡に開催出来ました。第二回定例句会は十月三十一日に、大阪市の中央電気倶楽部で開催しますが、既に多数の参加申し込みをいただいております。句集祭等の定例行事も多数予定されています。

今後共、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（企画部長　西川吉弘）

第一回定例句会開催

八月二十九日（土）、午後一時より大阪市の中之島中央公会堂にて第一回の定例句会を開催した。参加者は事務局五名を含め総勢二十五名であった。皆様のご協力に深く感謝致します。

※参加者の作品は次の通り

球児等の泪と笑顔八月尽　森口　和子
秋初め五分の魂今三匹　同
子のきえし其の魔性みたる秋の闇　同
ひとりいることの痛覚蟬時雨　谷川すみれ
炎昼や音をたてずにやりすごす　同
睡蓮やおのが光を全開す　同
足どりに出るわが齢蚯蚓鳴く　野村　朴人
茶の友の日々汲みにくる水澄めり　同
マグマ噴く山が真向ひ赤のまま　同
水打ちていきなり蛙に抱きつかれ　吉村　艶子
ステテコの父に抱っこをねだる児よ　同
ポスターの血の気奪ひし大西日　同
雷一過罪ありありと七十年　志々見久美子
口結び尻尾巻くなと新酒汲む　同
休肝日おしよせてくる草いきれ　同
言ひ訳のしどろもどろの汗みどろ　松島　圭伍
露草に生れて瑠璃のひと雫　同
灯火親し額に眼鏡休ませて　同
軸足にしれっと深い踊の輪　三好つや子
眠らないライオンの顔文字がちゃがちゃ　同
朝帰り見ないふりする立葵　同
天刑の骨と血で咲く曼珠沙華　山浦　純
虫時雨宇宙に上下天地なし　同
白桃を剝けば指より滴れり　同
戦なき七十年を生きて秋　志村　宣子
ひまわりの向かう少年特攻兵　同
蚊帳の闇たたむ昭和を波だたせ　同
良夜かな影の先行く宇治十帖　北村　峰月
間引き菜の命たふとし酢味噌和へ　同
団栗のどつちどつちの手のどつち　同
村祭伊勢より獅子の舞ひ来る　勝　俊一
玉音を聴く校庭に茄子の花　同

沈めても意志あるごとく浮人形　同
マドンナは今もマドンナ敬老日　高橋　将夫
踊の輪切れてもすぐにつながりぬ　同
銀河系宇宙と浄土系宇宙　同
燕去ぬ公会堂のレンガ窓　大西　陽子
天国と地獄のはざまカンナ咲く　同
来し方の強き一本百日紅　同
秋暑し誰も知らない偉人像　内田　茂
青春切符二百十日を乗り継げり　同
蛇穴に後悔のない旅をして　松浦てつ子
木棺の朱形を残し涼新た　同
肌に染む熊野古道の盆の月　同
チェロビオラみな新涼のビブラート　一門　彰子
ひらく書に養生のことつくつくし　同
星合のエレベーターに擦れ違う　同
胎動が激しい嬉しい菊人形　葛城　裸時
バッタ飛ぶネット空間冷やす頃　同
カカシさん僕の体を借りにきた　同
風神と雷神の間の新走　木村オサム
音声に書き順あらず天の川　同
白桃を吸うて未知なる母へ出る　同
丘にゐてつくつく法師まみれなり　橋本小たか
まだ顔についてる感じ蜘蛛の糸　橋本小たか
いっせいに窓あける脚だんごむし　同
音たてて粘着テープ切る残暑　桑田　和子
末席に秋の身を置く黒真珠　同
身のほどの影持つ栃も団栗も　同
日の残る空なまぐさし凌霄花　吉田　成子
水面打つ雨を見てをり夏の果　同
新米やこの国いまも疎開人　同
八月や赤き種痘の証明書　上藤おさむ
八月や癌細胞を連れ歩く　同
終戦日楷書で署名してをりぬ　同
葛あらし日本海を遠ざかる　川﨑　奈美
落蟬の翅のみどりも二夕夜経し　同
新米の艶をよろこぶたなごころ　同
はじまりは煙はげしき大文字　杉浦　圭祐
朝顔やときどきひらく錆の門　同
滝写せばもう戻り来ぬ水光る　同
八月や語れぬままの七十年　西川　吉弘
字余りのような戦後の八月尽　同
ねこじゃらし明日は明日の風に揺れ　同

（記録　西川　吉弘）

平成26年度　決算報告書

平成27年４月25日

（自・平成26年４月１日～至・平成27年３月31日）　関西現代俳句協会　（単位：円）

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	1,914,594	総会費	806,539
本部交付金	1,578,800	会議費	41,493
総会費	520,000	俳句大会費	485,962
俳句大会投句料（投句数1221句）	814,000	句集祭	756,104
句集祭参加費	486,000	青年部活動費	105,526
青年部	35,500	印刷費	293,640
雑収入	260,000	事務費	31,519
		通信費	318,772
		交通費	162,930
		役員手当	330,000
		ホームページ費	120,000
		雑費	17,242
		弔費	32,400
		次期繰越金	2,106,767
合計	5,608,894	合計	5,608,894

三菱東京UFJ銀行普通預金 1,640,157円（利子 250円含む）
現金 466,610円
収入 5,608,894円－支出 3,502,127円＝2,106,767円
残金 2,106,767円を次年度へ繰り越します。

上記の通り、平成26年度の収支決算報告を致します。　会計　村田あを衣

上記の通り、厳正に処理されたことを認め、報告いたします。

平成27年４月18日　会計監査　西川　吉弘　辻本　孝子

平成27年度　予算

平成27年４月25日

（自・平成27年４月１日～至・平成28年３月31日）　関西現代俳句協会　（単位：円）

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	2,106,767	総会費（会場費・懇親会費）	800,000
本部交付金	1,600,000	会議費	100,000
総会費（懇親会費）	500,000	句集祭（会場費・懇親会費）	700,000
句集祭参加費（懇親会費）	500,000	俳句大会費（会場費・賞品費）	500,000
俳句大会参加費（投句料）	800,000	定例句会費（会場費・その他）	50,000
定例句会参加費	50,000	印刷費（会報・その他）	300,000
青年部活動費	50,000	通信費（郵送料・電話代・その他）	300,000
		事務費（事務用品）	100,000
		交通費	200,000
		役員手当	400,000
		青年部活動費（講演会・句会他）	200,000
		ホームページ費	120,000
		雑費（慶弔費・消耗品代）	50,000
		次期繰越金	1,786,767
合計	5,606,767	合計	5,606,767

関西現代俳句協会のホームページについて

関西現代俳句協会では二〇〇四年十月からホームページを開設していますが、インターネットを使用されない方にはご理解困難な点もありますので、その内容をご紹介します。

①トップページ「今月のエッセイ」
会員のエッセイ（毎月更新）。
二〇〇五年一月スタート、バックナンバーを御覧いただけます。

②協会の入会案内
入会の方法、問合せ先。

③新着情報
ホームページ開設以来の更新情報及び協会情報。

④協会の概要
関西現代俳句協会の略史、協会会報の全頁を紹介。
活動内容（講演会、全国大会、忘年・句集祭、関西俳句大会、定例句会、吟行会など）、役員構成、事務局の所在地。

⑤結社・俳誌紹介（登録のある結社）
五十音順と府県別がある。いずれも結社俳誌名、主宰・代表者名、発行所の所在地、発足年月を記載。（依頼により随時更新）

⑥会員の著作
ホームページ開設以来の会員の句集などの著書を紹介。

⑦イベント案内
協会主催の各種イベント、シンポジウム、全国大会、吟行会などの紹介。

⑧青年部ページ
青年部員の作品や連載エッセイ、句会・勉強会・シンポジウムなどの行事案内と記録を掲載。

⑨リンク
協会関係並びに会員のホームページ（サイト）やブログへのリンクページ。

いずれのページも掲載ご希望の場合は事務局までご連絡ください。

（事務局）

謹　悼

平成二十六年八月一日より、本年九月十日迄の期間中に現代俳句協会で受付けた、ご逝去会員のお名前をお知らせし、謹んで哀悼の意を表します。（敬称略。括弧内は住所と所属誌名）

記

清水　盛一（兵庫県・草樹）
吉田不可止（兵庫県・風来）
長尾　由夫（兵庫県・なぎさ）
山本　光胤（大阪府・響・海程）
辻本　照美（大阪府・所属なし）
新納　科村（京都府・京鹿子）
伊丹　公子（兵庫県・青群）
田上多喜子（兵庫県・青群・秋）
的井　健朗（大阪府・頂点・杭）
和田　悟朗（奈良県・風来）
川嶋　　充（滋賀県・藍）
鈴鹿けい子（京都府・京鹿子）
豊田　都峰（京都府・京鹿子）
吉本伊智朗（兵庫県・斧）

◆平成二十七年度の事業予定

本年十月以降来年九月までの関西現代俳句協会の行事は次の通りです。

＊会報の発行

会報四十四号を十月に発行。

＊「忘年・句集祭」

平成二十七年十二月五日（土）、ヴィアーレ大阪にて午後三時十分より句集祭、五時三十分より懇親会開催。

＊総会並びに俳句大会

平成二十八年四月二十三日（土）、ヴィアーレ大阪において総会並びに第六回関西現代俳句大会を開催します。この俳句大会の作品応募要領などは次の通りですが、この会報に投句用紙を同封していますので、出来るだけ多数のご応募をお願いします。

投句作品の締切　二十八年一月末日
投句料　三句一組　二千円
（何組でも投句できます。また会員外の投句も歓迎します）
送り先　投句用紙に記載

＊平成二十八年度定例句会開催予定

第三回　平成28年7月30日（土）
第四回　平成28年10月29日（土）
それぞれ定員五十名
会場　ホテルヴィアーレ大阪（五階会場）にて開催を予定しています。

○会費納入についてのお願い

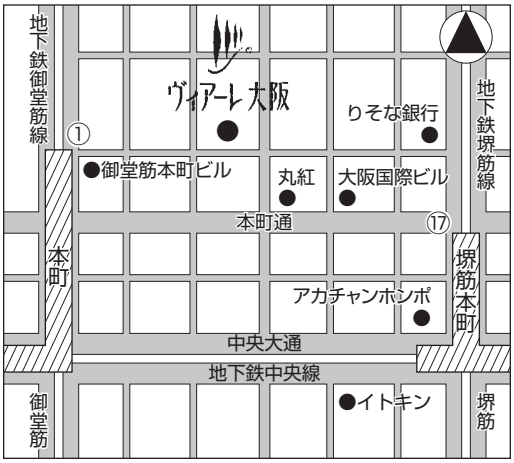
平成二十七年度、現代俳句協会会費（一万円）未納の方は、すみやかに所定の振替用紙にて納入をお願い致します。

◆「忘年・句集祭」の会場について

会場のヴィアーレ大阪までの道順は、会報同封のご案内にも書いていますが念のため次の通りです。

地下鉄御堂筋線本町駅下車、一号出口を出て、すぐ東（左、堺筋方向）へ徒歩三分（左記地図参照）

なお梅田方面からは一番うしろの車輌、天王寺方面からは一番前の車両に乗車されると一号出口に近い位置です。



関西現代俳句協会会報・第44号
発　行・平成二十七年十月一日
発行人・吉田　成子
編集人・上藤おさむ
事務局・〒六一九―〇二二四
木津川市兜台五―一―十三
木津かぶと台十四―一〇一
TEL/FAX　〇七七四―七二―八五八四